

## 2016 春季生活闘争 共闘連絡会議 第1回全体代表者会議 決意

連合 2016 春季生活闘争は、第 71 回中央委員会(2015. 11. 27)での方針確認にもとづき闘争態勢を確立した。そして、本日の第 1 回中央闘争委員会において当面の進め方とヤマ場を確認した。

わが国は、超少子高齢化・人口減少という構造問題を抱える中で、マクロにおける分配のゆがみや非正規雇用の増大、そして所得格差が増大している。

こうした将来不安を払拭し、自律的な安定成長に向けて、すべての働く者の賃金の「底上げ・底支え」「格差是正」の取り組みが不可欠である。

そのために、これまでの春季生活闘争が果たしてきた日本全体の賃金決定メカニズムを活かしつつ、大手追従・大手準拠の構造からの転換に挑戦し、地場の中小企業で働く人々、非正規雇用で働く人々、労働組合のない職場で働く人々の処遇改善により光を当てた取り組みを強化する。

また、サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正な分配に資する公正な取引の実現は、産業政策の観点からも労使共通の課題であり、春季生活闘争を機に、通年的に取り組むを進めていく。

構成組織は、連合方針にもとづき、具体的な要求内容を決定し、2 月末までに要求を提出し 3 月決着に向けて交渉を展開するよう指導を強化する。

5 つの部門別共闘連絡会議は、それぞれの産業の特性を踏まえ、主体的な取り組みを展開するとともに、共闘連絡会議全体で情報を共有し一丸となって闘争を進める。

以上、共闘連絡会議 第 1 回全体代表者会議として決意する。

2015 年 12 月 17 日  
共闘連絡会議  
第 1 回全体代表者会議